

(15) 目で見える漢字は言葉より覚えやすい

漢字学習で脳障害児に抜群の効果が

(11)のところで、言葉というものはいろいろな音声によって組み立てられていて、それが一定の順序に、一定の間隔で発音されるのを、一音一音その通りに受け入れて初めてそれと理解できるのですから、言葉を受け取るということは想像以上にむずかしいものがある、ということを指摘しました。

しかし、それ以前の問題である「言葉そのものを覚えること」がそれ以上にむずかしいものであることを、私たちは知っておく必要があります。

ひどい脳障害による重度の精薄児には、言葉の覚えられない子どもがいます。ひどい精薄児だから言葉が覚えられないというよりも、言葉が覚えられないのでひどい精薄児になったと言うべきでしょうが…

脳障害児にとっては音声の特徴や違いを聞き分けることが出来ず、それで言葉が覚えられないのだと思われます。言葉が覚えられないと、(9)のところで述べたように「物を見ても、それを表わす言葉を持たないとそれを認識することが出来ない」ので、知能が育たず、そのため精薄児になった、と考えられるからです。

それは「ひどい脳障害のために言葉の覚えられない子どもでも、目で見える言葉 漢字 は覚えることが出来る」という事実(それは石井教育研究所の脳障害児教育によって初めて明らかにされました)があり

ます。脳障害児が漢字を覚えて「漢字を読む学習」(と言ってもまだ言葉を知らないのですから、発音できるわけがありません。漢字を見て、その漢字の表わす内容を頭の中に思い浮かべ、例えば花という漢字カードを見せて実際の花を指さすようにさせる学習)をくり返してやっていると、頭を使うことによって頭の働きが良くなるためでしょう。言葉が言えるようになって、漢字をほんとに読むようになり、知能の発達していくことが明らかに観察されました。

またこの事実から、耳で聞く言葉よりも一目で全体の意味がわかる漢字の方がずっとわかりやすく、覚えやすいものだということを、私は発見することが出来たのです。

耳で聞く言葉は発せられるや否や消えてしまうので、発せられる瞬間にこれをとらえて覚えるよりほかに仕方ありませんが、目で見える言葉

漢字 は消えませんが、つまり覚えるまで待っていてくれるわけですから、どんなにもの覚えの悪い者でも必ず覚えられるというわけです。

そこで今度は、まだ言葉の言えない赤ちゃんに漢字を教えてみることも試みました。するとやはり、同じように漢字をまず覚え、その漢字を識別するという仕事が頭の働きを発達させるために、漢字をほんとに(声を出して)読むようになったのです。

「言葉と漢字とを同時に学ばせよ」と前項で言いましたが、その裏にはこのような実験があり、そうすれば必ず、すばらしい効果のあることが明らかにされていたからです。